

居合道たより

居合道ながさき



<長崎県剣道連盟居合道部理事会 報告>

平成 30 年 1 月 21 日(日)居合道委員会及び居合道理事会が長崎県営野球場第 2 会議室において開催されました。長崎県内の居合道理事 14 名と長崎県剣道連盟理事 1 名が参加をしました。理事会の内容は平成 29 年度事業報告、平成 30 年度事業計画案、予算案、平成 29 年度県剣道連年会費・居合道部年会費納入報告、平成 30 年・31 年役員改選、その他の事項では居合道手帳の講習会特典、中央審査受審者の推薦、県剣道連盟剣道の推薦者について検討し決定をしました。

◇平成 30 年・31 年役員改選では理事会の承認を経て、決定をしました。(敬称略)

居合道委員長・部長：高木志伸 副部長：月見一博・平 禮道 事務局長：三根博幸
 居合道 理事：佐藤信秀(県連)・灰谷達明(県連) 濱本勝馬・大山勲・岩田重憲
 川見秀人・高屋元治・宮崎勝次・加藤忠清・小林保彦・塩土宗喜
 監事：小川倫平・福田英輝 県連理事：高木志伸 顧問：森敏男(追加)

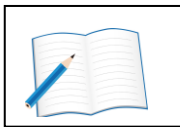
◇平成 30・31 年度 昇段審査委員

審査委員長：県連派遣 審査委員：(教士七段)高木志伸・宮崎勝次・小林保彦
 月見一博・金丸律子・平禮道(錬士七段)中村武文・岩田重憲・海野宏輝・廣瀬正祐

①居合道手帳の講習会特典について

◇居合道審査(初段～五段)筆記試験の考慮

- ・過去 1 年間で 5 回の講習会の内 3 回受講した者に筆記一部免除にする。
- ・問題 1 (配点 50 点)居合道修業の目的等 全員実施
- ・問題 2・3 (配点 25 点×2)全日本剣道連盟居合道着眼点・要領等(免除)



②中央審査受審者の推薦について

- ・県剣道連盟剣道の推薦者に準じて推薦をする決定。
- ・西日本地区講習会、特別講習会(全剣連招聘)、中央講習会伝達講習会のうちいずれかを受講した者を推薦する。

③情報交換

◇居合道会員が少なく各道場での苦悩が続いている。今後とも居合部会員の増加について検討すべきである。各道場での声掛けを引き続き行っていきたい

<第 59 回大阪居合道大会 報告> 準優勝 二段の部中村政樹四段の部宮崎フサ子

平成 30 年 1 月 7 日(日)に大阪府のエディオンアリーナ大阪にて第 59 回大阪居合道大会が開催されました大会は個人演武(段外～7 段)段外・初段は自由技 5 本、二段～七段は自由技 3 本と指定技 2 本でした。長崎県からは七段の部(147 名)に高木志伸居合道教士七段、六段の部 宮崎大輔錬士六段(82 名)、五段の部(124 名)に畑中健佑、二段の部(107 名)に中村政樹・川下浩一、四段女子の部(26 名)には宮崎フサ子が出場しました。全国から集まった、段外～八段までの 1,400 人を超える日本最大規模の大会でしたが、その中でも見事に二段男子の部で中村政樹(修道塾・西彼)が準優勝、四段女子の部宮崎フサ子(友剣会・島原)が準優勝を果たしました。来年も日々の修行を積み重ね、是非とも多くの方が参加できるように期待いたします。



エディオンアリーナ大阪



中村政樹(修道塾・西彼) 宮崎フサ子(友剣会・島原)



平成 30 年度 居合道部年間事業計画及び行事予定

4月 1日(日)	春季居合道講習会並びに春季昇段審査会	大村市武道館(大村市)	県剣連
6月30日(土)	第1回理事会及び第1回居合道委員会	大村市武道館(大村市)	居合道部
7月 1日(日)	第48回長崎県下居合道段別選手権大会	大村市武道館(大村市)	県剣連
7月7・8日(土・日)	居合道西日本地区講習会	和歌山県和歌山市	全剣連
9月 16or23日(日)	居合道伝達講習会並びに級位審査会	大村市武道館(大村市)	県剣連
10月 7日(日)	秋季居合道講習会並びに秋季昇段審査会	大村市武道館(大村市)	県剣連
10月20日(土)	第53回全日本居合道大会	茨城県茨木市	全剣連
11月10日(土)	居合道六・七段審査会(東京)	東京	全剣連
11月 24日(土)25(日)	居合道特別講習会	大村市武道館(大村市)	全剣連講師派遣
12月16日(日)	県下剣道祭	長崎総合体育館	県剣連
1月27日(日)	第2回居合道委員会・理事会	長崎県営野球場(大橋)	県剣連
3月24日(日)	居合道講習会並びに級位審査会	大村市武道館(大村市)	県居合道部

＜新年のご挨拶＞ 長崎県剣道連盟居合道部 部長 高木志伸

新しき年を迎え、皆様のご多幸とご清武を祈念いたします。長崎県剣道連盟居合道部は平成29年1月の居合道理事会において新体制の役員が承認され、一年が過ぎました。この間、居合道会員の団結、連携を強くできるように事業推進にあたってまいりました。これからも会員同士が共に学びあい「交剣友愛」の輪を広げたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本年度は居合道七段・六段審査において平成29年6月30日(金)七段に岩田重憲(平戸市)、海野宏輝(長崎市)・六段三根博幸(長崎市)平成29年11月18日(土)七段に廣瀬正祐(静心会・長崎市)が見事合格をしました。このことは日頃の稽古に対す熱い思いや弛まぬ努力の成果が現れたのだと思います。また、全日本居合道大会(広島大会)においては監督高木志伸、選手平 禮道(七段の部)、宮崎大輔(六段の部)、畑中健祐(五段の部)の3名が出場し、47都道府県中、団体11位(6.17)でした。九州勢8県の中では一番良い成績でした。平成30年1月7日(日)の大阪居合道大会でも見事、二段男子の部で中村政樹(修道塾・西彼)が準優勝、四段女子の部宮崎フサ子(友剣会・島原)が準優勝を果たしました。まさに筆舌に尽くしがたいほどの素晴らしい結果でした。素晴らしい結果を成し遂げた会員の皆様と関係の皆様にご心から敬意と感謝を申し上げます。

今年度も全日本剣道連盟並びに長崎県剣道連盟とより深く連携をとり、長崎県剣道連盟居合道部の活動が剣道の理念に沿ったものになるよう努めていきたいと考えておりますので、会員皆様の暖かいご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。それでは皆様にとって、最良の年になりますように祈念申し上げます。



特集・・・日本刀ができるまで

長崎県内の工業高校機械科で使用されているキュポラは製鋼するためにコークスと石灰石で銑鉄を溶かして鋳型に流す技術は海外で考案され、日本では江戸時代後期に伝えられた。日本では日本刀をつくるために、砂鉄を野たたらで玉鋼にして木炭で鍛える方法だった。このために刀という世界に類を見ない剣が誕生した。粗い鋼の魂は幾度も鍛錬によって贅肉をそぎ落とし、焼き入れて強靭さを増した。

(1)玉圧し(たまへし)

刀の材料となる鋼は砂鉄を集めて作った玉鋼(たまはがね)一振りの刀を作るのに4~5Kgの玉鋼が必要でできあがりの重さはおよそ1Kgほとんどが鍛えていくうちに飛んでしまう。真っ赤に焼いた玉鋼を薄く延ばし鋼は水につけて小さな断片にする。

(2)積み沸かし(つみわかし)

選り分けられた鋼の小片は、それぞれ積んで溶け始まる前の状態になるまで焼かれる。純鉄は1536度で溶ける。炭素鋼は1350度程で溶ける。

(3)折り返し鍛錬

焼かれた鋼は槌で打って延ばされ、鑿(たがね)で半分に切り込みを入れて折り返され、また打たれる。練られていくうちに鋼の中の不純物が除かれる。

(4)造りこみ(つくりこみ)

心鉄と皮鉄と組み合わせる工程。平たく延ばした皮鉄をU字方に丸め、その中に別に鍛えた心鉄が入るように成型する。

(5)素延べ(すのべ)

心鉄を皮鉄で包み込んだものを槌で打ってすこしずつ延ばしていく作業。この段階で刀の長さがほとんど決まる。

(6)火造り(ひづくり)

素延べした鋼を小さな槌で刃の部分の薄くし、棟(むね)や鑄(しのぎ)などの形を作っていく段階。800度~900度に焼く。これである程度反りも付き、だいたい刀らしい形になる。

(7)土置き(つちおき)

刀全体に焼刃土(やきばつち)という粘土を塗り棟から鑄にかけては厚く、刃の部分は薄く塗る。刃の部分の塗り方によって刃文が決まる。刃文には直刃(すぐは)、乱れ、のたれ、互の目乱れ、丁字乱れがある。

(8)焼き入れ(やきいれ)

727度から850度まで熱し水につける。オーステナイト組織から急冷すると炭素Cを過飽和状態にしたα鉄の組織になるこれをマルテンサイト組織という。この熱処理で粘土を薄く塗った刃の部分だけ急冷され焼きが入る。厚く塗った棟の部分は徐々に冷め焼きがあまり入らない。焼きを入れることでさらに反りがつく。焼き入れは一回しかできない。

(9)仕上げ

鍛冶押し(かじおし)刀を作った本人が形を整え、ある程度刃が付くまで荒研ぎをした後に研ぎ師に渡す。砥ぎの段階で傷が出てくる場合も多い。

